

事務事業名 体力づくり事業

政策:05 生涯を通じて人と人とがふれあい共に学びあえるまちづくり

施策:03 スポーツの振興

部名:教育部

課名:スポーツ振興課

基本事業:01 スポーツ活動の充実

計画年度	平成19年度	～	年度	事業区分	継続	会計区分	普通会計	
1 対象（誰、何に対して事業を行うのか）				2 手段（事務事業の内容、やり方、手順）				
市民				市民が気軽に参加できる歩け歩け大会を開催する。 <実施方法> ・市体育指導員役員会議にて提案、開催決定 ・参加者募集開始 ・開催案内を広報、チラシにて市民に対して周知 ・コース下見（約12km） ・歩け歩け大会当日、雨天により中止				
3 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）								
市民が気軽にウォーキングできる。								
4 活動指標・成果指標・事業費の推移								
区分	指標名称			単位	20年度実績	21年度実績	22年度当初	25年度目標値
活動指標	役員会開催数			回	3	3	3	-
活動指標	住民への周知回数			回	4	4	4	-
成果指標	参加者数			人	70	84	80	-
成果指標	開催回数			回	1	0	1	-
事業費				千円	48	35	80	
				うち一般財源	千円	48	35	80
5 目的妥当性								
○ 法定受託事業である（根拠法令→） ● 妥当である ○ 妥当性が低い				市民が気軽に、体力づくりできる場を提供していくことは、市民の体力向上に有効であるので市が推進する事業として妥当である。				
6 上位の基本事業への貢献度								
○ 貢献度大きい（理由→） ● 貢献度ふつう（理由→） ○ 貢献度小さい（理由→） ○ 基礎的事務事業				市民が日常的にスポーツ意識してもらえるきっかけとなる。				
7 対象や意図の妥当性、費用対効果の検討								
○ 対象や意図を見直し、費用対効果を上げることができる ● 対象や意図の見直しはできない ○ その他				開催意図と対象者が違うので見直しはできない。				
8 有効性（成果状況）								
○ あがっている ● どちらかといえばあがっている ○ あがっていない				参加希望者が多く、市民の体力づくりのきっかけづくりとして適当。				
9 有効性（成果向上余地）								
○ 成果向上余地・大 ● 成果向上余地・中 ○ 成果向上余地・小・無し								
10 事業の再編成								
○ 類似の事業があり、再編成できる ○ 類似の事業はあるが、再編成できない ● 類似の事業はない				ない				
11 効率性（コスト削減の方法）								
○ ある ● ない				ない				